

未来創造プラン意見交換会 「ふくちやま未来創造ミーティング」 報告

【日程① 夜久野地域】

日 時：平成 27 年 7 月 22 日(水)19：00～21：00

場 所：夜久野ふれあいプラザ研修室 I・II

講 師：龍谷大学政策学部教授 只友景士

参加者：市民 19 人

意 見：

- ・ 合併前後で職員の動きが違う。大組織によくあるように硬直的になってしまっている。
- ・ 誰が評価するべきか。達成度の計り方も考えないといけない。
- ・ 「市民協働」とは、どういうものか。どう考えるか聞かせて欲しい。

⇒一番重要だと考えているのは話し合いです。それも片方だけの意見だけでなく、お互いの大事にしている考えを同じテーブルで議論し、活かし合うということと考えています。その仕組みや場づくりも重要と認識しています。

- ・ 市からは決まったことの報告しかない。これからもそうであれば、いくら市民ががんばってもできることと、できないことがある。本当に同じテーブルにつけるようにして欲しい。
- ・ 広報ももっと丁寧に。e—ふくちやまでも、住民に十分な説明がなく、不満の種となった。
- ・ 夜久野の 100 人ミーティングは、まちづくり協議会をつくる上で、このまちの課題などを出し合いたい、という思いで独自に実施した。
- ・ 合併前までは、役場と地域が一緒になってまちづくりに取り組んできた。

(計画について)

- ・ このように大きな人口目標を掲げるのではなく、今いる人がより輝けるようなまちづくりを進めていけるかの方が大事だと考える。
- ・ 都市構造図、教育を取り上げてくれているのはうれしい。これは夜久野地域の資源である。しかし、夜久野地域には住むところがないという現状がある。そういう認識を持って取り組んで欲しい。
- ・ 現状と課題について、これだけで全ての地域を説明することはできない。市全体の一般論だけで話しをするのでは、解決しないこともあるということを市職員みんなが認識して欲しい。
- ・ 地域においてなかなか女性が前に出られない。出る杭として打たれてしまう。地域はもっと女性が元気にならないといけないと考えている。
- ・ この場に来た人は非常に関心の高い人だと考える。みんながもっと感心、感動できるよう運営の点での工夫が必要である。
- ・ タイトルからして、ミーティングするのかと思っていた。実際は聞くばかりだった。内容についてはしっかり聞かせてもらったが、説明だけなら、説明会という名称にすべき。
- ・ 地域の特性を理解した上での場づくりが必要だと考える。
- ・ 協働を進めるには、住民だけでなく、行政からも直接住民との対話を進めないといけない。

【日程② 大江地域】

日 時：平成 27 年 7 月 24 日(金)19：00～21：00

場 所：大江町総合会館

講 師：龍谷大学名誉教授 富野暉一郎

参加者：市民 11 人

意 見：

- ・この会はミーティングよりも説明会、とした方がピンとくるのでは。結果もう少し参加者があったかもしれない。
- ・長くまちづくりにかかわってきたが、頭が固まってしまっている部分があると思う。それを変えるためには、若者、外からの人など含めてやりたい。思い込みはそうしないと無くならない。
- ・自分の周り 10 人から聞き取りでまちの意見を集めている。

(計画について)

- ・旧大江町も計画の見直しは 5 年でやってきた。この期間は妥当である。このプランの中ではチャレンジ、強い意志が見えにくい。これによって人口を維持するんだという。
- ・この計画をどのように実行していくのか。また、そこに市民はどのように関わっていいのか。

⇒具体的にどうすすめるか、というのは、分野別計画の中に示しています。市民の関わり方については、小さな拠点など、自治基本条例（案）でも示している地域づくり組織などが具体的な例であります。

- ・この市は、市民が活動しにくいまちだと考える。例えば、道の使用許可など。市が活動をどう応援、支援していくのか、市の動きが見えない。
- ・まちづくり推進課など、市民が相談できる組織は拡大すべき。
- ・市民交流プラザふくちやま（ききょう）をもっと活用するには、市民が管理・運営すべきである。中間支援組織の拠点として。そういったことを意見交換する場もない。
- ・色んな規制をどう開放していくか。まちづくり、という部分をもっと行政が考えれば一緒に色んなイイものをつくれると感じる。

⇒（富野）行政と市民活動が一緒になっているところは結構ある。京都では、市民活動センターを NPO が運営している。しかし、指定管理者制度では、質が確保できない。行政が、もう少し混合セクターなどつくってもいいかもしれない。

- ・協議会には多様な人たちの参画が必要だと考えているが、夜久野のメンバーには女性がとても少ないと感じる。女性の参画について制度化などはムリか。

⇒（富野）金を出す以上公的・社会的意味があるものでないといけない、という考え方はある。一地域の組織だから地域にまかせるのは原則だが、制度としては重要かもしれない。

- ・役員をしている女性と、そうでない女性の方とで、大きな隔たりがある。そういう人達の声拾うにはどうすればいいか。
- ・若いときからもっと男女が一緒になって地域活動をつづけて、そういった意識付けを 20 年かけてつくらないといけない。

⇒（富野）京丹後市の活動では、地域行事で料理のことになるといつもは出てこない女性

がたくさん出てきてくれたという例がある。生活の中で触れてきたような身近なことなど、分野やテーマを工夫することで開けてくる可能性はある。

- ・まちづくりとは、まず、自分たちの村は自分たちで守る、というのが基本と考える。合併して国道 175 号を、どうしていくのか、アクセスをスムーズにできないのか。合併して、三和、夜久野も一体というなら同じように交通網の整備をお願いしたい。
- ・若者が高齢者とどう関わるか、伝統的な祭などどう守っていくか。伝統行事はそれに参加することで、まちのことを知り魅力に思ってもらえるまちづくりの重要なものである。

【日程③ 三和地域】

日 時：平成 27 年 7 月 27 日(月)19：00～21：00

場 所：三和地域公民館

講 師：龍谷大学政策学部准教授 大石尚子

参加者：市民 26 人

意 見：

- ・地域協議会とは市も認める組織であるはず。今回のこのミーティングに関して協議会に対して情報共有が図られていない。
- ・この条例には、「やってあたりまえ」のことしか書かれていないのではないかと。もっと中味と細分化して、具体的で拘束力をもったものにならないか
⇒この条例はまちづくりのルールを定め、それを明文化するものです。細分化された部分は、個別条例で定めていく必要はあると考えています。
- ・(地域づくり組織について) 地域に一つの包括的な組織、ということは、小学校区と中学校区とが一緒に存在しないことになるのか。そうすると先行の利が出てくるのでは。
⇒それも地域の特性ごとに住民の議論で決定すべきことと考えています。

(計画について)

- ・プランはよく書けているが、具体には中身がないのでは。各種計画についてこれが達成されたかのフィードバックが、市民に対してあったか。
- ・こういった計画については第 3 者機関などによる、その達成度などの進捗管理が必要と考える。
- ・現状の把握からやるべきことが見えてくる。まずは現状把握が必要である。
⇒評価についてはこの計画の成果指標や、行政評価などで今後も行っていきます。
- ・人口について、人口を維持していくためにこれらの施策があるのか。
- ・6 万人に減ったとしても豊かに暮らしていける、という施策や視点は重要だと考える。
- ・何もしてくれなくなった、と文句ばかり言ってもいけない。10 年 20 年後三和地域で幸せに暮らしていくためにはどうしたらいいか。脱成長型社会、ロハスというものに地方に住む考え方、その魅力を自分達を感じないといけない。
- ・マップについて、これのベースは新市建設計画に新たな要素として、小さな拠点を加えたものだと思うが、地域公民館単位が中心と一律に描くのは違和感がある。
- ・地域に 3 つの輪があるのはむしろ合併を引きずっているのではないかと感じる。
- ・エリアを 4 つにしたこと。小さな拠点について、その意味をもう一度考えたほうがいいのではないかと。

- ・今のこの地域は、25年後どころかこの5年が心配という状況である。自分達は今迫っている課題を何とかしなければならない。
- ・条例などはこれから個別分野的な検討がされることとなるだろうが、その際に、住民の参画ができるよう、場の提供をお願いしたい。

【日程④ 北陵地域】

日 時：平成 27 年 7 月 29 日(水)19：00~21：00

場 所：三和地域公民館

講 師：京都文教大学 地域協働研究教育センター専任研究員 滋野浩毅

参加者：市民 4 人

意 見：

- ・いろいろやっているが、この地域において過疎化が進んでいる。
- ・人がいないのは、経済的な基礎がないと住まない。(継続しない)
- ・短期的な取組もいいが、長期的な視点がないと継続しない。
- ・幅広い見識を持った熱心な個人がいれば、活性化につながる。
- ・一人でもいれば、目に見える形で実現可能になる。
- ・雲原は、農業・林業・砂防がある。コメ作りも難しくなっている。それに替わるものを見つけるのが、今の課題である。
- ・雲原は農家レストランを営業されている移住者もいる。
- ・移住者の受入については排除しない地域と思う。可能性がある。
- ・これからの移住希望者がいれば、自治会には入ってほしい。
- ・行政に求めるものとして、口は出さず、お金を出してほしい。
- ・高齢化率 45%で独居老人も増えている。見守りや不安解消も地域で担わなければならない。
- ・やはり地域の人口の確保が課題である。子どもは 20 人くらい。将来も見通しは暗い。
- ・移住者の可能性を考えていけば。自治会に入るなどルールを提示して。
- ・私は市民憲章が好きだ。普遍的な価値がそこにある。
- ・「わ」はなんかぼんやりしている。意図はあると思うのだが・・・
- ・この地域において診療所の存在が大きい。

【日程⑤ 六人部地域】

日 時：平成 27 年 7 月 31 日(金)19：00~20：50

場 所：六人部地域公民館

講 師：京都府北部地域・大学連携機構研究員 佐藤充

参加者：市民 9 人

意 見：

- ・地域協議会は地域づくり組織として位置づけられているが、公民館はどういう扱いか。
- ・自治基本条例（案）第 26 条の「地域に一つの」ということは、小・中学校ごとに混在できない、ということか。もし、そうならそう定める意義は。
- ・協議会の構成メンバーは、重複するのではいか。自治会と協議会の住み分けが住民では

うまくできないのではないか。

⇒地域特性にもよると思います。田舎型と都会型など、元々の自治会の活動やつながりの強さ、成り立ちなどによって、変わってくると考えています。

- ・地区計画を策定されるなら、それに合わせることで、小さな拠点などの考え方とうまく合致するようであれば一体的に進めることも必要である。
- ・生活基盤について、色々な課題あるが、上下水道の整備などは今さら書くべきことなのか。
- ・市民協働とは、これまで地域での消防団活動や PTAなどでやってきている。今さら、と感じる部分もあるが、地域協議会とは別のものなのか、新たな協働の仕組みと考えるなら、古い考えを一旦リセットするべきなのか。
- ・課題に対して解決することが自治会の大きな役割かと考えるが、地域協議会は広くまちづくりを主な役割とするのか。
- ・課題解決の取り組みの仕掛けも必要でないか。

【日程⑥ 日新地域】

日 時：平成 27 年 8 月 3 日(月)19：00~21：00

場 所：日新地域公民館

講 師：京都文教大学 地域協働研究教育センター専任研究員 滋野浩毅

参加者：市民 16 人

意 見：

- ・魅力あるまちとは、そこで生活できる環境が必要である。生活基盤＝仕事と思う。仕事があり⇒生活でき⇒文化が形成され⇒ゆとりが生まれる。
- ・全国への転勤経験があり 12 年前に戻ってきた。組に 12 軒あるうちの 5 軒が空き家となっている。原因は何か？考える必要がある。災害があると若い人は住みたくないのではないか。市政の批判については、その市長を選んだ市民の責任である。
- ・戸田に住んでいるが、新しい人が数人入っている。女性が家族を引っ張ってきている。女性の力は強い。女性の働く環境が重要ではないか。
- ・生産年齢人口の区分けを見直したらどうか。65 歳から 70 歳に引き上げる。まだまだ社会貢献が十分な年齢を高齢者扱いするのはもったいない。上手にシニアの力を引き出す仕掛けを行政が創っていただきたい。
- ・ディスカッションペーパーの説明を。(非常におもしろい)
- ・野球(西日本大会)が福知山で開催されたけど泊るところがなく、若狭のほうまで宿泊されたチームがあると聞いた。市内でイベントをやっても知らないことが多い。福知山市の特徴として利便性の高い交通網や豊かな自然を上手にアピールすればよいのではないか。

(計画について)

- ・具体的なまちづくりの姿をみせて説明すればわかりやすいのではないか。高齢者は 10 年先もイメージできない。
- ・佐賀地区に住んでいる。(公民館の役員をしている)佐賀地区は人口が減っており、小学校の統廃合の話も以前あった。問題は、独身者(未婚者)が多い。家が建てられない。

- ・福知山市は過疎の地域をどう考えているのか？支援をしてほしい。
- ・子どもは10年前に比べて半分になっている。
- ・移住者の受入についても過疎の地域はよそ者を受け付けない土壌がある。
- ・小学校がなくなることについて無関心であり、積極的でない。
- ・便利な所へ住む傾向。なぜ条例が必要か考える必要がある。具体的な事例があればわかりやすい。

【日程⑦ 成和地域】

日 時：平成 27 年 8 月 5 日(水)19：00～20：50

場 所：成和地域公民館

講 師：京都府立大学公共政策学部講師 杉岡秀紀

参加者：市民 12 人

意 見：

- ・自治基本条例を市民が作るものなら、説明会も市民がすべきではないか。
 - ・事業をどう市民参画を得て進めていくつもりか。
- ⇒全ての分野で市民協働の視点は欠かせません。また男女共同参画についても同様です。
- ・市民も行政も有限であり、優先順位が必要と思うが市はどう考えるのか。
 - ・行政は横の連携がとれていない。ここを進めないと市民の力を活かすこともできない。
 - ・府と市はどういう関係を築いていくのか。
 - ・人口減少時代には、自分の姿、位置づけをしっかりと、個性を持って取り組まなければならない。
- ⇒(杉岡)あれもこれもと、国が打ち出した計画が全てうまくいっていない。国が言うことを聞けばうまくいく時代は終わった。府は聞けば答えるだけの考えや答えを持っているが今はない。今、府が持つ役割は変わっており、①つなぎ役、情報共有、②単独のバックアップ、③パイロット事業の実施。まずは第一が基礎自治体、まず自らのことを知ることが大事である。
- ・変わることに期待している。しかし、変えようというところが見えない。

【日程⑧ 市民交流プラザふくちやま】

日 時：平成 27 年 8 月 7 日(金)19：00～21：00

場 所：市民交流プラザふくちやま 3 階 市民交流スペース

講 師：龍谷大学政策学部教授 只友景士

参加者：市民 20 人

意 見：

- ・100人ミーティングでの意見、結果はどうなっているのか。
- ・自治基本条例をつくる理由、市民へのメリットやデメリット、行政への妨げはなにか。
- ・自治基本条例の案はどのように行政は推し進めていくのか。
- ・行政の市民に対する立場に“上から目線”を感じてしまう。
- ・最高規範性と書くのは、問題があるのではないか。
- ・行政が守るべきこと、市民の役割や政治参画の方法など明文化されていなかったものを、

条例によって明文化して、ビジョンづくりの土台にしようとしているのか。

- ・未来創造プランで人口を目標にしている理由は。例えば、生活保護者が増えては仕方がないように、ただ人口が増えることが良い、とすべきではないのではないか。
- ・市民の幸せの定義とは、幸福度などを汲み取る国勢調査やアンケートのような仕組みづくりを目指すべきではないか。定点観測が必要。「住み良い=幸せ」というわけではないはず。
- ・福知山の政策は、抽象的過ぎて「福知山らしさ」がない。個別的な事業を詰める必要がある。
- ・中心市街地は若者が離れて空き家、駐車場だらけになっており、これを解決しなければ中心市街地の活性化は望めない。
- ・こういった場の参加者が少ないと、意見も出ない。例えば、行政と気軽に話せる飲み会やごはん会などの開催も少し考えてみたらどうか。市民ももっと参画すべきと考えるし、そういう機会を作れば良いと思う。

【日程⑨ 川口地域】

日 時：平成 27 年 8 月 10 日（月）19：00～20：45

場 所：川口地域公民館

講 師：京都府立大学公共政策学部講師 杉岡秀紀

参加者：市民 8 人

意 見：

- ・この自治基本条例をまず、周知徹底するべきと考える。市民一人ひとりがこの条例を理解してから、施設マネジメントなどについて説明するべきかと思う。
- ・2章が教育だが、高校が6校あり、4年制大学もあることなどを考えると、6章地域の特色にも入るのではないか。
- ・中山間地域については、すでに来年が危うい。
- ・現実を見て計画に反映してほしい。そうでないと、せっかく素晴らしいものが今あっても、それを台無しにしてしまう。（駅南のさるすべり伐採の話）
- ・大学で若者の流出を防ぐことだけでなく、流入してきた人たちが「このまちいいな」と思ってくれることが人口増につながる。大学においても地域の魅力を伝えることが大事と考える。

ふくちやま未来創造ミーティングの様子

